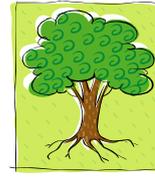


くすのきだより



令和7年4月8日
来迎寺小学校
4月号

言葉の向こうにある思い

校長 吉富 靖

春の暖かな日差しに誘われて、学校の花壇の花も桜の木も満開になりました。お子様のご入学・ご進級おめでとうございます。私たち教職員一同、子どもたちの笑顔があふれる学校にしたいと願い、新学期を迎えました。本年度の本校児童数は、1年生80名、2年生91名、3年生93名、4年生96名、5年生105名、6年生104名、全校で569名、22学級でのスタートになります。

さて、年度の初めに、卒業式でもお話しした友人との会話を紹介します。

彼は、小学生の時、おじいちゃんに飲まされる千振茶（せんぶりちゃ）が嫌で嫌でたまらなかったと話していました。千振茶とは、千回振っても苦いという意味の、とっても苦いお茶です。小学生の頃、いたずらっ子だった彼は、悪さをすると、おじいちゃんに罰として、その千振茶を飲まされたそうです。おじいちゃんに「千振茶を飲みなさい」と言われて飲むときは、「もう二度と悪さはしないぞ」と思うのですが、しばらくすると、また悪さをしてしまい、結局、彼は何百杯も飲むことになったそうです。小学生の彼にとって、それはとっても嫌な思い出だったそうです。そんな彼も大人になり、おじいちゃんも数年前に亡くなったある年、おばあちゃんが彼にこんなことを言いました。「あんた、お腹は何ともないかね？」と。彼が「なんともないよ」と答えると、「じゃあ、じいちゃん喜んどのわ。あんたは小さい頃、お腹が弱くてね。どうしたらこの子のお腹が強くなるか、じいちゃんは考えて、考えて、千振茶という胃腸の薬をあんたに飲ませたんだよ。」と言ったそうです。彼にとって、それまで鬼のようだと思っていたおじいちゃんが、実は優しいおじいちゃんだったと知り、涙が出たそうです。

「千振茶を飲みなさい」この言葉の向こうには、おじいちゃんの「元気に育ててほしい」という愛情が詰まっていたことは言うまでもありません。

たくさんの経験を積み重ねないと、言葉の向こうにある思いを感じることは難しいかもしれません。本校の校訓は、「なかよく がんばる やさしい子」です。学校生活を通して、仲間と「なかよく」活動する楽しさや喜び、「頑張る」ことで得られる達成感、友達の「優しさ」にふれた安心感など、かけがえのない経験をたくさん積み重ね、言葉の向こうにある思いを感じられる、優しい人に成長してほしいと願っています。

本年度も、保護者、地域の皆様のご理解、ご協力、ご助言をいただきながら、よりよい学校づくりに努めます。どうぞよろしく願いいたします。